

# 高校生の喫煙実態調査について

—10年前の調査結果との比較—

ミツイ アケミ カナツジ ハルミ オオツキ マミコ  
光井 朱美\*1 金辻 治美\*2 大槻 眞美子\*3  
ニシダ ヒデキ シゲタ マサコ アオキ アツコ  
西田 秀樹\*4 繁田 正子\*5 青木 篤子\*6

**目的** 喫煙による健康被害は、喫煙開始年齢が低いほど大きくなるため、未成年者の喫煙防止対策は重要な課題であり、平成12年度に実施した調査を元に、10年を経過した現在の未成年の喫煙実態を把握することで、これまで取り組んできた未成年者に対する喫煙防止対策の検証と、さらなる対策の推進を図る基礎資料とすることを目的とした。

**方法** 管内にある3つの高等学校の生徒を対象に自記式無記名のアンケート調査を実施し、合計2,464人（回答率92.4%）から回答を得た。調査内容は、平成12年度の調査内容を基本とし、22年度は一部変更し、分析については平成12年度の調査結果と比較検討した。

**結果** 平成22年度調査は10年前と比較して、高校生全体の非喫煙者が、51.2%から81.9%に増加し、喫煙者が著しく減少した。

**結論** 喫煙者の著しい減少には、社会的な関心の高まりや公共施設等の禁煙化だけでなく、学校教育を中心とした未成年者喫煙防止対策等も影響している1つとして考えられた。

**キーワード** アンケート調査、高校生、防煙教育、未成年の喫煙実態

## I はじめに

喫煙による健康被害は、喫煙開始年齢が低いほど大きくなるため、未成年者の喫煙防止対策は重要な課題である。山城南保健所では、平成12年度に管内の高校生を対象に「高校生の喫煙実態調査」を実施し、喫煙開始年齢が予想以上に低年齢であった実態を把握し、早期防煙教育の必要性を確認した。その後、社会的な関心の高まりや公共施設等の禁煙化が進む中、学校教育を中心とした未成年者喫煙防止対策等に取り組んできた。

学校では、未成年に対する喫煙を防ぐための教育（以下、防煙教育）が行われ、学校からの要望に応じて保健所とNPO法人京都禁煙推進研究会が連携して防煙教育への支援を行ってき

た。

そこで、今回は、前回の調査から10年を経過した現在の未成年の喫煙実態を把握し、これまで取り組んできた未成年者に対する喫煙防止対策の検証と、さらなる対策の推進を図る基礎資料とするために調査を実施した。

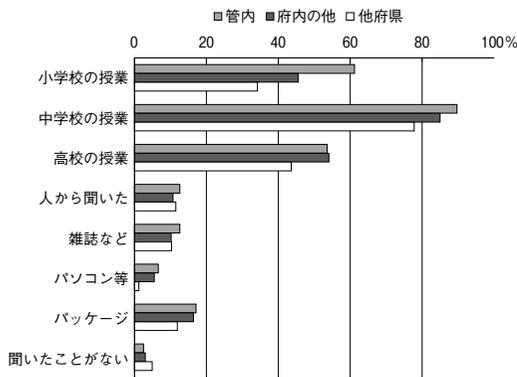
## II 方 法

当保健所管内にある3つの高等学校の生徒を対象に、自記式無記名のアンケート調査を行った。調査時期は、平成22年6月から7月の1カ月であった。

高等学校には事前に了解を得て、回答した内容が漏れないように配慮の上、欠席者を除く全校生徒に各教室内で教師が調査用紙を配布し、

\*1 京都府山城南保健所保健室保健師 \*2 同副室長・保健師 \*3 同室長・保健師 \*4 同所長・医師  
\*5 京都府立医科大学大学院・医学研究科地域保健医療疫学准教授 \*6 NPO法人京都禁煙推進研究会保健師

図1 たばこの害を知ったきっかけ



回収した。

調査内容は、平成12年度の調査（以下、前回調査）内容を基本とし、平成22年度調査（以下、今回調査）では、一部変更した。調査後は、エクセルで集計し、分析した。

### Ⅲ 結 果

#### (1) 今回調査

3校の高校生、合計2,464人より回答が得られた。内訳は男子1,429人、女子1,035人、1年生942人、2年生727人、3年生795人で、回答率は92.4%であった。

居住地は、当保健所管内の地域が41.5%、その他の地域が、57.6%で、同居家族の人数は、5人が42.2%で最も多く、次いで4人が40.3%であった。

防煙教育を受けた時期については、全体では、「中学校の授業」が84.7%で最も多く、次いで「高校の授業」51.9%、「小学校の授業」49.9%で、授業として学習する機会を得ていた。防煙教育は、小学校の授業および中学校の授業での取り組みが、管内では、小学校61.2%、中学校89.7%で、管外では、小学校45.5%、中学校85.0%、他府県では、小学校34.2%、中学校77.8%であった（図1）。

図2 喫煙状況の変化

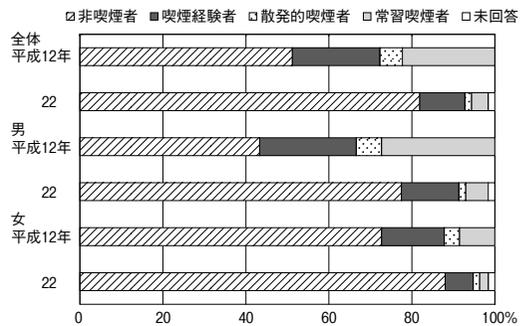
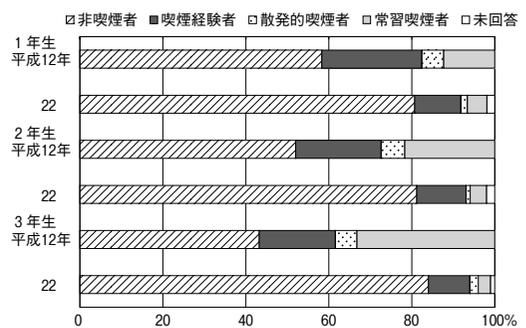


図3 学年別喫煙状況



#### (2) 前回調査と今回調査結果の比較について

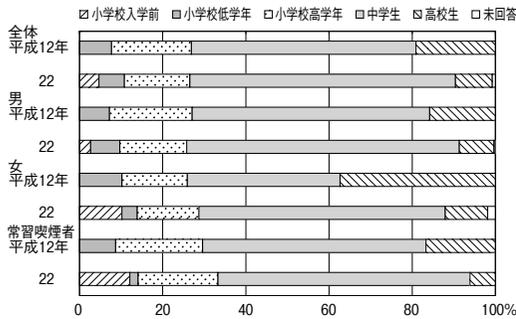
##### 1) 喫煙状況

前回調査では、「吸ったことがない」を非喫煙者、「吸ったことがあるが、最近は吸っていない」を喫煙経験者、「時々吸うが毎日ではない」を散発的喫煙者、「毎日吸っている」を常習喫煙者としており、実態を前回調査と比較検討することから今回調査も同じ分類とした。

非喫煙者は、51.2%から81.9%に増加した。男子の非喫煙者は、43.3%から77.5%に、女子の非喫煙者は、72.7%から88.0%に増加した。常習喫煙者は、22.3%から4.0%に減少した（図2）。

学年別でみた非喫煙者は、1年生58.3%から80.7%に、2年生は、52.0%から82.0%に、3年生は、43.3%から84.0%へと、学年が上がるとともに前回調査とは逆に増加していた。一方で、常習喫煙者は、1年生12.3%から4.7%に、2年生21.7%から4.0%に、3年生33.3%から

図4 喫煙開始時期の変化



3.0%とどの学年も前回調査と比べて大きく減少していた。また、今回調査では、常習喫煙者は学年が上がるともにわずかではあるが低くなっていた(図3)。

2) 喫煙開始時期と開始理由

前回調査の結果により喫煙開始年齢の低年齢化が明らかになったことを踏まえ、今回調査では、喫煙開始時期として小学校入学前の項目を追加した。喫煙開始時期は、前回調査で小学校低学年が7.7%だったが、今回調査で小学校入学を合わせると10.8%に増加した。女子生徒については、高校入学後に喫煙を開始する割合は、10.2%で、男子生徒の8.4%に比べやや多かった。また、常習喫煙者は、全体に比べ小学校入学前、小学校低学年を合わせた割合が前回調査に比べて多くなっており、開始時期が早い傾向にあった(図4)。

喫煙開始理由について、全体では「好奇心から」が最も多かったが、その割合が56.1%から38.1%に減少した。男女別では、前回調査結果と同じ傾向で、女子は「イライラするので」が28.4%から18.5%と少なくなっているものの、比較的多い傾向にあった(図5)。

3) たばこの入手先

喫煙者および喫煙経験者のたばこの入手先は、前回調査では、自動販売機が、86.7%と圧倒的に多かったが、今回調査ではコンビニ44.0%、自動販売機23.6%、たばこ販売店33.4%であった。また、「他の人からもらう」が、32.5%から62.3%に増加した。

図5 喫煙開始理由

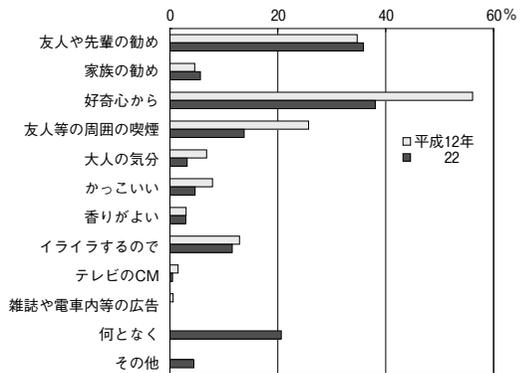
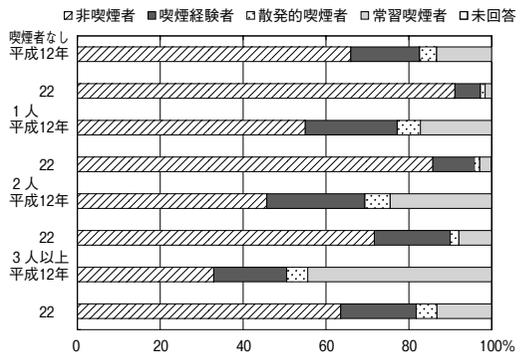


図6 生徒と同居家族の喫煙関連の変化



4) 同居家族の喫煙人数との関連

前回調査と比べ、同居家族の有無にかかわらず全体的に生徒の喫煙者は減少している。家族の喫煙者が増加するのに伴い、非喫煙者の割合が減少し、常習喫煙者の割合が増加する傾向があった(図6)。

5) 居住地別喫煙状況

管内市町村に居住する生徒の喫煙率は、府内の他の市町村や他府県の生徒の喫煙率より低かった。また、たばこの害を知ったきっかけでは、小学校の授業が、管内の生徒は61.2%で、他の府内市町村45.5%や他府県の34.2%より高かった。

6) たばこの害についての変化

たばこの害についての認識の変化を喫煙状況別にみると、全体では「悪いところばかりで、良いところはない」との回答が、前回調査では約半数であったが、今回調査では、7割を超え、

約1.5倍の増加となった。また「わからない」の回答は14.8%から9.5%に減少した。常習喫煙者の「悪いところばかりで、良いところはない」の回答は、前回・今回調査共に半数に達しなかった。

7) たばこのやめにくさについての認識の変化  
喫煙状況別に、禁煙する場合のやめにくさの認識の変化をみると、全体、非喫煙者、喫煙経験者および散発的喫煙者では、「大変つらく、やめるのは非常に難しい」が前回調査に対し、今回調査では多くなっていた。一方、常習喫煙者の「大変つらく、やめるのは非常に難しい」は、前回・今回調査とも6割弱で変化していなかった(図7)。

#### IV 考 察

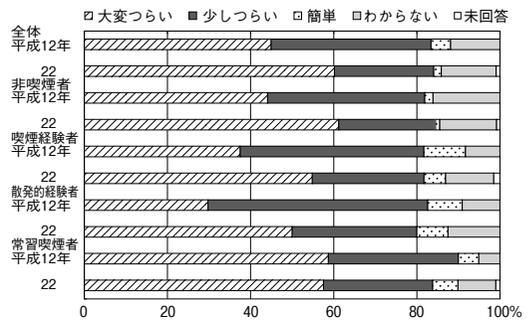
管内の高等学校の生徒から合計2,464人の回答が得られ、回答率は前回調査と比較すると79.3%から92.4%と非常に高くなった<sup>1)</sup>。

前回調査と比較して、喫煙者数とたばこを「自動販売機で買う」が著しい減少、また、たばこの害やたばこのやめにくさを正しく認識している者が増加しており、好ましい結果として挙げられる。

これらの背景として、中学校・高等学校等における防煙教育が積極的に行われたこと、成人男性の喫煙率の減少、「未成年者喫煙禁止法」の改正(平成12年、13年)によりたばこの購買に関して制限や罰則が設けられたこと、受動喫煙防止対策の推進、禁煙治療の拡大等、喫煙を取り巻く環境がこの10年間に於いて変化してきたことが挙げられる<sup>2)</sup>。

その中で、生徒が小学校や中学校の授業で防煙教育を受けた割合は、管内に居住地がある生徒は他の地域に居住している生徒より高かった。また、居住地別の喫煙状況では、管内の生徒は管外や他府県より喫煙者の割合が低かった。これらの2つの結果の関連性については、今回の調査では明らかにならなかったが、管内の生徒の喫煙率に、これまでの小・中学校で実施されてきた防煙教育の取り組みが一定の影響を与え

図7 たばこのやめにくさについての認識の変化



ているのではないかと推測され、今後、具体的な効果について、もう少し検討していく必要があると考える。

次に、以上のような好ましい変化があったものの、いくつかの問題・課題もみられた。

1つめは、全体の喫煙者の著しい減少がみられた反面、常習喫煙者の喫煙開始年齢は、中学生の時が最も多いが、前回と比べて小学校低学年以下で喫煙を開始した生徒の割合が増えており、喫煙者の喫煙開始時期で見逃せないことがわかった。これらのことから、学校保健のみならず、地域保健での知識の普及・啓発の必要性があると考えられる。

また、女子生徒の喫煙状況の特徴として、全体の状況と同様の傾向がみられるものの、より低学年の時から喫煙を経験する生徒が男子に比べて多かった。また、喫煙を開始する理由は、男子に比べて「イライラするので」の理由で開始する割合が多く、同様に開始年齢は、「高校生」から開始している割合が男子に比べて多いことから、女子の心理的情緒的な複雑さがあることがわかった。

2つめに、たばこの入手先では、「自動販売機」による購入は減少したが、現実としては、自動販売機も含め、コンビニやたばこ販売店等で購入している者が多かった。また、今回は親、兄弟、先輩等から「もらう」と回答したものが、喫煙している者および経験者の半数以上にみられた。これらのことから、高校生がたばこを吸いたいと思うとき入手できる方法は、時代が変わってもいくつも存在していると考えられた。

3つめは、常習喫煙者が持つたばこについての認識の低さは前回と同様に高かった。

また、今回新たに、家庭内の喫煙者の割合とその生徒の喫煙状況をみたところ、家庭内の喫煙者割合が高くなるのに伴い、生徒の非喫煙者の割合は少なくなったが、反対に常習喫煙者の割合は増加し、とりわけ、喫煙を経験した生徒の割合が増加していた。

これらのことから、家庭の中で喫煙者が存在するという環境が子どもの喫煙開始をたやすいものにし、常習喫煙者となった生徒はたばこへの依存性を持ちやすく、やめたくてもやめにくいという禁煙の困難性が推測できる。しかし、現状として、常習喫煙者の中に禁煙を希望している生徒がいることから、一部の学校で試みているように実態に見合った支援として、禁煙に向けて生徒が遠慮なく相談できる場があることが重要である。また、生徒の身近な周辺にいる大人を含め、広く社会への啓発も必要である。

今回の調査結果から、従来からの防煙教育を継続して実施していくこと、また、それに加えて、小学校での授業としての取り組みも積極的に行っていく必要があると考えられる。

また、小学校入学前や小学校低学年に喫煙経験があったこと、家庭内喫煙者割合の高さと喫煙の経験に相関が示唆されたことから、学校教育のみならず、地域保健や職域保健における取り組みも重要であることを再認識した。例えば、母子保健では、妊婦や乳幼児の保護者に対してマタニティー教室や乳幼児健診の場で、地域・職域保健では、働き盛りの年齢層に対し健診や特定保健指導などの場でといったように、種々の機会を通じての正しい知識の普及・啓発や禁

煙支援が考えられる。禁煙支援については、喫煙が習慣化し、依存性が高くなると禁煙することの困難性が高まることから、外来受診を含め禁煙希望者の個々に応じた継続的な支援が重要である。

以上のことから、たばこ対策を推進するには、学校保健、地域保健、職域保健、医療等におけるそれぞれの分野での取り組みが重要であり、ライフサイクルに応じた包括的なたばこ対策の必要性が示唆された。

これまで地域においては、「総合的な府民の健康づくり指針 きょうと健やか21」<sup>3)</sup>におけるたばこ対策指針の中で「禁煙、分煙、防煙を実践しよう」をスローガンとして様々な取り組みが展開されてきたところであるが、今回の調査結果を関係機関で共有することにより、さらなる取り組みを進めていきたい。

今後は、従来からの防煙教育の継続と母子保健分野での啓発普及など包括的なたばこ対策が必要と考えられる。

今回の調査・分析内容については報告書を作成し、関係機関に配布した。

## 文 献

- 1) 京都府木津保健所(2001.3.) 高校生の喫煙実態調査.
- 2) 厚生労働省「厚生労働省の最新たばこ情報」のホームページ (<http://www.health-net.or.jp/tobacco/front.html>) 2010.12.21.
- 3) 京都府(2003.1)「きょうと健やか21たばこ対策指針」(<http://www.pref.kyoto.jp/tobacco/shishintop.html>) 2010.12.21.